

建物超寿命化支援企業の
株式会社シゲル・コーポレーションが
毎月発行する瓦版です

NEO

★当社が協賛するBSNラジオ番組『石塚かおりのBrand new day』内にて
内容リフレッシュして、引き続き当社ラジオCMオンエア中! (毎週火曜日7:15~8:54内)

★BSN TV朝の情報・報道番組『THE TIME』内にて
当社お天気フィラーTVCM放映中! (毎週月曜日6時30分頃)

毎月掲載しておりました
ことだま千絵子さんの
「ことだま」作品は、当社
ホームページにお引越し
しました。
新着情報で作品を掲載中♪

御協力させていただき
ました



こんにちは【建物超寿命化支援企業】株式会社シゲル・コーポレーション社長の増村文武です。

新潟地方も、ようやく梅雨に突入いたしました☔ 梅雨明け後はいよいよ夏の本番がやってきますね☀ 今年は例年にも増して暑い夏が来ると聞いております。昨年も常軌を逸した猛暑だったのに、どうなっちゃうんでしょうとたじろいしておりますが、その原因は太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけての海面水温が平年よりも低くなるラニーニャ現象と言われておりますね💡 ちなみにラニーニャは女の子、エルニーニョは男の子という意味のスペイン語だそうです…

年々建物にとっても過酷さを増している気候変動なわけですが、この夏も弊社は、たくさんの、建物を守る・長持ちさせる防水・外壁改修工事の御用命を承っております。

社員一同、熱中症対策にも留意しながら業務に精励致します。7月も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

I. シゲル文英会 安全大会実施

今月のトピックス

- I. シゲル文英会 安全大会実施
- II. 「チャレンジ新潟 ゼロ災害運動2024」
- III. 当社 現在、企業紹介TV番組の制作中!



▲シゲル文英会 増村会長 挨拶



▲安全標語 表彰の様子

6月15日(土) 新潟東映ホテルにて約130名の皆様にご出席いただき シゲル文英会の安全大会を行いました。第1部では、増村会長の挨拶、安全管理部 小柳部長より事故事例の報告がありました。その後 安全表彰で企業表彰・職長表彰、および募集より選ばれた安全標語の表彰も行われました。

また第2部では、品質に関連する技術研修を東亜合成株式会社 武田様、アーキヤマデ株式会社 山口様より行っていました。



アーキヤマデ株式会社
山口 様



東亜合成株式会社
武田 様



▲安全「誓いの言葉」唱和 協力会社代表 板井建築 涌井 健一 様

II. 「チャレンジ新潟 ゼロ災害運動2024」参加

新潟労働局 主催の新潟ゼロ災害運動に今年も参加します。

2024年度当社安全標語

『危険予知 気づいた人が責任者 みんなで築く安全職場』をスローガンに協力会社の皆さんと共に安全確保の推進を図ります。

チャレンジ新潟ゼロ災害運動2024
Niigata Safe Work
あてない みんなで達成「ゼロ災害」
新潟労働局・各労働基準監督署
株式会社シゲル・コーポレーション シゲル文英会

安全宣言

「チャレンジ新潟ゼロ災害運動2024」
令和6年7月1日～12月31日

本取組を機に、以下の事項について、労使一丸となり、労働災害の無い、安全な職場づくりに取り組むことを宣言する。

- ア 安全衛生管理体制を整備すること
 - イ 安全衛生法を遵守すること
 - ウ 以下の安全衛生活動を実施すること
 - ・リスクアセスメント・危険予知活動・5S運動
 - ・指差し確認と念頭による確認作業の励行・職場巡回
 - エ 安全衛生教育を実施すること
 - オ 2024年度当社安全目標
- 『危険予知 気づいた人が責任者 みんなで築く安全職場』をスローガンに協力会社の皆さんと共に一人ひとりの自覚性を伴った安全確保の推進を図ります。

令和 6年 6月 12日
事業責任者氏名 株式会社シゲル・コーポレーション 代表取締役社長 増村文武
労働者代表氏名 安全管理部 部長 小柳 厚

III. 当社

現在、企業紹介TV番組の制作中!



弊社がご縁をいただいておりますBSN様にて、目下、当社企業紹介TV番組の制作中です! 番組名は

『Point of view 新潟で働く人たちが見た景色』8月には、素敵なTV番組が完成予定です♪

荻昌弘さんを愛してやまない 俺ちゃんのシネマコラム

連載第74回 今月のテーマ 『監視されてる!』



自称、シゲル・コーポレーション内で一番の映画好き、増村文武です。

ここ最近も話題作公開が目白押し、さっそく観てきました~♪ 公開開始を待望にしておりました『マッドマックス』シリーズ最新作である『マッドマックス：フリリオサ』前作『マッドマックス 怒りのデス・ロード』に登場した、片腕がメカ化されたクールな女戦士フリリオサ誕生にまつわる前日譚を描いたスピノフ作品。ジョージ・ミラー監督、ありきたりのサイバーパンクな近未来とは全く異なる世界観を本作でさらに増幅。ある意味より現実的な、油とレシプロエンジンに支配されたオンリーワンなディストピアの構築には度肝を抜かれます。前作のフリリオサ役であったシャーリーズ・セロンに代わり、大抜擢されたアニャ・テイラー=ジョイのセリフを必要としない目力演技と、初登場のヒール・ディメンタス将軍を演じる『マイティ・ソー』クリス・ヘムズワースによるぶっ飛んだ狂人の役作りも見物。ぜひ劇場で御鑑賞を!



★毎月掲載している挿絵はこちらからもどうぞ。

★今月のイラスト

『往年の映画撮影用カメラ』

さて連載第74回目のテーマはずばり『監視されてる!』我々の現代社会もまさに監視カメラとネットによる監視型社会であることにもはや異論はありませんが、今回もテーマに即してチョイスした、強烈極まる3本を御紹介。

■No.217『ザ・ウォッチャーズ (2024年 アメリカ映画)』

この原稿を記す前日に劇場鑑賞してきた最新作。幼少期にある原因により母親を亡くし、心が疲れたままの主人公ミナ。彼女は知人から鳥籠に入った鳥を遠隔地まで届けることを依頼され、アイルランド郊外の森の中まで車を走らせますが、突然車が故障。鬱蒼とした森の中で完全に方向感覚を失います。夜が近くなり得体の知れない何かの存在を感じ取る中、偶然見かけた老女に導かれ、外の景色は中からは伺い知れないガラス張りの部屋がある謎の山荘に避難。そこには他に2人の男女がおり、彼らは決して逃げ出すことのできないこの森の中で、毎晩訪れる得体の知れない何かにガラス張りの部屋の外から監視され、そうすることで殺されることなく命乞いをしているのだと教えられますが… 特異な何かの正体がなかなか明かされぬまま恐怖感は加速、そして後半は一気に謎が解明されていくのですが、最後まで幾段ものオチが続きます。当コラムでも紹介作品多数なホラーミステリーの名手M・ナイト・シャマランの娘さん、イシャナ・ナイト・シャマラン監督デビュー作。父親とは一味違う女性的な感性によるヒューマンな味付けを加えた異色な1本。

■No.218『キャビン (2012年 アメリカ映画)』

とある大学生5人組が、週末を近郊の森の中にあるキャビン(山小屋)で過ごす計画を立てますが、その小屋の地下室には恐るべき秘密が隠されていて… と、ここまでは、非常によくあるB級ホラーの王道的設定なわけですが、本作が全く違う展開を見せるのは、同時進行で映し出されるどこかのハイテク企業とおぼしき職場の研究班チームスタッフのたわいないやり取り、しかしながらこのスタッフ達は、ある目的に従って小屋にやってきた5人を監視し、恐るべき結末へと誘導しようとしているのです。前半と後半で趣が大転換、また、単なるシリアスなホラーサスペンスではなく、コメディ要素も融合したハイブリッド感ある1本。後半は歴代悪人・怪物全員集合状態による阿鼻叫喚・2転3転な怒涛の展開となり、開いた口が塞がりません。当コラム第5回目にて紹介した『トゥルーマンショー』も、シチュエーションは違えども、ある企業による特定人物の監視を題材にした逸品でした。当コラム今月のイントロダクションで御紹介した『マッドマックス：フリリオサ』ディメンタス将軍役のクリス・ヘムズワースも、この時はまだ若さ全開のナイスガイ役で出演していました。

■No.219『スノーデン (2016年 アメリカ映画)』

『プラトーン』、『JFK』の社会派オリバー・ストーン監督による実話をもとにした1本。今回もオリバー・ストーン流に、リアルにそして切なく仕上がっております。エドワード・スノーデンとは、実際にCIAに在職していた元職員で、2013年に彼がアメリカ国家安全保障局に関する機密情報について、『ガーディアン』誌に暴露した実際の事件を映画化。国を愛する優しい青年だったスノーデンが、なぜ自身の所属する情報機関に対して最終的に謀反することになったのかの過程を、恋人とのやりとりも交えながら繊細かつ現実的に描いていきます。スノーデン役、当コラム第41回目にて御紹介『インセプション』のジョセフ・ゴードン=レビット、複雑な心境を丁寧に表現できる素敵な俳優さん、実際のスノーデンさんにも良く似てます。今回紹介の他の2作品は、特定の登場人物に対する監視という内容でしたから、ある意味少し現実離れた安心感とエンターテインメント感を持ちながら鑑賞できたのですが、本作はまったく趣が異なり… 監視の対象者が我々人類全てであり、我々にとっては既に入り込んでいて逃れようもない脅威の本質を知ること、あらためてゾッとします。

もし御興味が湧いてきましたら、皆様もぜひ一度御鑑賞を (^-)-☆

